

令和8年度 亀山市立野登小学校 研究デザイン

教育大綱 基本方針―I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上を進める。

学校教育目標 めざす学校像

「地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成」

- ・地域とつながり、活力あふれる学校
- ・一人ひとりの子どもが生き生きと学び、活動する学校

めざす子ども像

【仲間とともに高め合える子】

人の話をよく聞き、思いや考えを自分の言葉で表現する子

【すすんで学ぶ子】

主体的に意欲をもって学ぶ子

【自他を大切にする子】

互いの違いを認め、自他の命・人権を大切にする子

めざす教師像

・「わかって楽しい授業」づくりに努める教職員

・子どもの声や思いを大切にする教職員

・地域や家庭と協働・連携し、信頼関係を築いていこうとする職員

重点目標

- ① 地域や家庭と連携し、地域資源を生かした教育活動を充実し、安心安全な学校づくりを進める。
- ② 確かな学力の定着を図り、個を大切にした主体的で対話的な授業づくりを進める。
- ③ 互いの人権を尊重し、仲間とともにつながり合い、高め合う教育活動を進める。
- ④ 教職員の働きやすい環境づくり、ワークライフバランスの確保を進める。

野登小の特色ある取組 ～ふるさと学習～

- ☆ ののぼりの自然から学ぼう
 - ・里山学習
 - ・安楽川
 - ・ミツマタ
 - ・穴虫の郷
- ☆ ののぼりの文化や歴史から学ぼう
 - ・遺跡
 - ・不動院
 - ・宗徳寺
 - ・野登寺
- ☆ ののぼりの達人から学ぼう
 - ・水墨画
 - ・なわなない
 - ・ネイチャークラフト
 - ・泥だんご
- ☆ ののぼりの特産から学ぼう
 - ・養豚
 - ・お米
 - ・お茶



野登小学校研究主題

進んで表現し、学びを高め合う子の育成～地域の支えを実感できる授業づくりを通して～

1 研究主題設定の理由

① 児童の実態

《生活面》

- ・明るく落ち着いて学校生活を過ごし、学校行事や学習活動に真面目に取り組むことのできる児童が多い。
- ・友だちの得意・苦手をよく理解しており、苦手なことを受け入れたり互いに協力したりする姿がある。
- ・周りの目を気にして、失敗や間違いが目立たないようにする様子が見られる。

《学習面》

- ・漢字の読み書きや四則計算などの基礎的な学力が身につけている児童が多い。
- ・自分からよりよい方法を考えたり、進んで発信したりすることに消極的である。
- ・問題の意図を読み取ることが苦手で、複数の資料から必要な情報を選択したり、言葉や図、数字等を使って自分の考えを表現したりすることに課題がある。

② これまでの成果・課題

昨年度からこの研究に取り組み始め、豊富な地域教材を活用した生活科、総合的な学習の時間の計画を立てて実施した。成果としては、教師の支援により課題を意識した探究活動ができたことが挙げられる。また、地域に向けた発表会の場を設定することで、達成感を味わわせることができた。課題としては、相手に理解してもらえるような話し方を苦手とする児童が多いことが挙げられる。さらに、聞く側としても自分の考えと比較する力が弱いと感じられる。

地域の支えをより実感できるよう、今年度は教員間でも地域教材についての情報交換会を行い、各学年のカリキュラムが、地域とどのような関わりがあるかを把握し、1～6年生までの地域教材を用いた学びをさらに深めるようにしていきたい。

2 研究主題について

「進んで表現」とは、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動をふり返って次につなげることとする。そのために、ひとり学びを充実させ、ペアで説明する場面やグループで話し合う場面を大切にし、自分の考えを伝えさせるとともに、児童の興味関心に応じた題材を用いて授業を進めていく。「学びを高め合う」とは、互いの多様な意見や考えをもとに学び合うことにより、自らの考えを広げ深めることとする。

本校は、児童が6年時に地区に自生しているみつまたを用いて卒業証書を作成している。この活動を含め、各学年で行っている活動は、学校運営協議会をはじめ、多くの野登の方々に協力いただいている。野登を大切に思う地域の方の気持ちや願いを児童が実感できる授業作りを行っていく。子どもたちが生き生きと意見を交わしながら、新たな見方で物事を捉えたり、互いの考えの共通点・相違点を見出したりしながら、子どもたちが自らの考えを広げ、深めていく姿を目指していきたい。

3 研究領域

生活科、総合的な学習の時間

研究主題

進んで表現し、学びを高め合う子の育成

～地域の支えを実感できる授業づくりを通して～

つきたい力

- 聞き手のことを意識して自分の考えを、根拠を示して伝える力。
- 友だちの意見を反応しながら聞き、自分の考えと比較して考えを深める力。
- 考え方が変容したり、新たな考え方に気付いたりして、次の課題を見つける力。

「進んで表現」

見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動をふり返って次につなげること

「学びを高め合う」

互いの多様な意見や考えをもとに学び合うことにより、自らの考えを広げ深めること

生活・総合的な学習の時間

- ・地域教材・地域人材の効果的な活用
- ・明確なねらいをもち、子どもの学びの意欲を大切にしたカリキュラムづくり
- ・4つの過程を意識した単元計画

I C Tの活用

- ・課題解決に向けた調べ学習
- ・多様な考えを表現・共有・議論する場面におけるロイロノートの有効活用
- ・遠隔授業等、他校児童への発信（複式校等）

学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」の実施
- ・キュビナ、Think!Think!の活用
- ・学習環境の充実
- ・家庭学習の習慣化
- ・自主学習ノート
- ・聞き方、話し方の掲示「話し方・聞き方マスター」
- ・読書活動の充実
- ・反応の掲示「ののぼりアクション」

安心して表現できる学校・学級づくり

特別活動の充実

- ・なかよし班活動による異学年交流の充実
- ・自治的活動（児童会、委員会）の充実
- ・学校行事における表現する場面の確保
- ・専門家や保護者、地域の方との対話の充実

安心できる学級づくり

- ・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり
- ・SSTとレジリエンス教育の推進
- ・学習規律の徹底
- ・子ども理解と支援の充実

5 具体的な取り組み

(1) 主体的・対話的な授業づくり

① 野登小授業スタイルの実施（かめやま授業デザインスタンダードプランをもとに）

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	めあての提示 (青で囲む)	・「何をどのように学ぶのか」具体的なめあてを子どもと共有し、 子どもの意欲を引き出し、課題解決の見通しをもたせる。
2 考える	一人で考える	・既習事項や具体物や資料などを手掛かりに、根拠を明確にして 自分の考えをまとめさせる。
3 話し合い 深める	ペア・グループ・ 全員での交流	・目的を明確にし、子どもにも意識させて交流を行う。 ・板書で意見を整理し、対話が深まるよう、考えを教師がつなく。 ・意見の相違点・共通点に注目して話し合い、考えを深める。
4 まとめる	めあてに正対する まとめ(赤で囲む)	・学習したことを整理し、キーワードを使って子どもの言葉でま とめる。
5 ふり返る	めあてに正対する ふり返り	・自己の変容や学び方をふりかえり学習内容の定着をはかる。 ・学習の過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。

② 生活・総合的な学習の時間

- ・カリキュラムを見直して、ねらいを明確にし、地域教材の効果的な活用を図り、ふるさと学習を充実させる。
- ・単元計画では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経ることにより、
子どもの探求的な資質能力の育成を図る。
- ・総合的な学習の時間に、人権学習や平和学習を位置づけ、系統的な学習の積み上げを図る。

③ ICTの活用

- ・自ら主体的に調べ、情報を集め、解決のための糸口を見つけられるよう、調べ学習を取り入れる。
- ・自分の考えをまとめたり、全体の場で表現・共有したりするときにロイロノートを有効活用する。
- ・ZOOM等を利用して遠隔授業を行い、他校児童に調べたことを発信することで、表現力の向上を図る。

(2) 学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」を毎月設定し、前年度までの学習を中心に復習し、基礎学力の定着を図る。
- ・デジタルコンテンツを活用し、個別最適化された学習に取り組むことで、基礎学力の定着を図る。
- ・家庭学習の手引きを学級懇談会の場で配付し、家庭学習力の向上を図る。
- ・自主学習ノートの内容を掲示して、よりよい学びの方法を共有することで、家庭学習力の向上を図る。
- ・キュービナ、Think!Think!を活用し、基礎学力の向上を図る。

(3) 安心して表現できる学校・学級づくり

① 特別活動の充実

- ・なかよし班（縦割り班）を使った異学年交流活動によって、人間関係を広げ、自己有用感を高める。
- ・集会や行事でのふりかえり発表や、下校集会でのスピーチ等、子どもが全体の場で表現する機会を確保する。
- ・専門家や地域の方をゲストティーチャーとして招き、対話できる機会を確保する。

② 安心できる学級づくり

- ・各種アンケート等の実施・分析から必要な取り組みを全職員で共有し、違いを認め合う学級づくりを行う。
- ・職員会議の場で子どもの情報を共有したり解決策を検討したりして、全職員で子ども理解・支援を行う。
- ・「学習の約束8」を基に学習規律の指導を徹底し、安心して自分の考えを表現できる学習環境をつくる。
- ・SSTやレジリエンス教育に取り組むことで、児童の自己肯定感を高め、自ら前向きに学習に取り組む態度を
養うことにつなげていく。